

## 教師を育てた 言葉たち

No. 024

### 神奈川県立神奈川総合高校 杉山崇裕 先生

すぎやま・たかひろ

◎教職歴 16 年。同校に赴任して 1 年目。総括教諭。カリキュラム管理グループ。地理歴史・公民科。単位制の同校では、教務担当が生徒の履修相談に乗る。例年夏に行われる後期入学者(\*)への履修説明会で、昨年はコロナ禍のため、動画を作成して配信。繰り返し見られると、新入生に好評だった。



**教** 職歴 8 年目、私は神奈川県教育委員会生涯学習課の勤務となりました。私も立案に加わったグループ学習を軌道に乗せる前に、前任校を去るのは心残りでした。しかし、乳幼児から高齢者までの多様な人たちの学びに関する同課での仕事を通じて、自分の視野が広がるのではないかと胸が膨らみました。

実際、仕事は多岐にわたり、例えば、家庭教育の推進を目的として、企業にノー残業デーの設定を働きかける業務では、各社に片っ端から電話をしました。電話口で断られても諦めずに協力を取りつけ、10 社以上訪問した月もありました。様々な業種の人と話し、家庭教育や社会教育に触れ、学びは学校にとどまらず、一生涯続いていくものだと思えました。

**一** 方で、教師以外の職を経験し、仕事の進め方に迷いも生じていました。そうした時に出席したのが、東レ経営研究所元社長の佐々木常夫氏による「仕事のあり方」をテーマにした講演会です。そこで話された、国際会議で上司が行う講演の原稿を佐々木氏が作成した時のエピソードに、目からうろこが落ちました。その会議は 3 回目だったため、過去 2 回の講演のうち、情熱と格調の高さが感じられた 1 回目の講演を基に原稿を作成すると、上司からすぐ OK が出たそうです。「自分で一から考えるよりも、先達の知恵を借りれば、効率も質も高まる。その学びの積み重ねの先にイノベーションが生まれる」といった話でした。

当時、記念誌などに掲載する教育長の挨拶文の作成を担当していた私は、後ろめたさを感じながらも、前年度の冊子の挨拶文を参考にしていました。しか

し、佐々木氏の「プアなイノベーションより優れたイミテーションを」という言葉に、自身の仕事の方向性が見えた思いがしました。

**そ** の後、学校に戻り、初めて進路指導グループの総括教諭となった私は、全国の先進事例を研究して自校に合った形で取り入れようと考え、まずは同グループのみで行っていた出願指導検討会を見直しました。3 学年団と進路指導グループの計 10 人の教師で 3 年生を 30 人ずつ分担。担当者が調べた志望校候補を 10 人全員で検討し、その結果を基に、担任が生徒と面談して出願校を絞り込むようにしました。3 学年団の半数近くが若手教師だったため、負担を分散しつつ、検討会を通じて指導ノウハウを学び、自信を持って生徒を支援できるようにすることがねらいでした。

進路指導グループの先輩教師と話し合い、ほかにも 2 年次に第 1 志望宣言を行うなど、学校全体で希望進路の実現を支援する体制を整えていきました。すると、生徒が教師によく相談に来るようになりました。面談の環境を整えようと、職員室の前の廊下に机と椅子を並べたところ、学習についての質問も増えていきました。若手教師も、周囲に支えられながら自信を持って生徒と面談ができるようになり、次第に生徒からの相談が増え、信頼されるようになっていきました。組織で生徒を支える重要性を実感しました。

その後異動した現任校も若手教師が多く、指導の継承が課題です。先達の知恵を学ぶことから自分のやり方を生み出していき、周囲からイミテーションされる存在を目指したいと思います。

神奈川県立神奈川総合高校 全日制／普通科／共学／1 学年約 250 人／2020 年度入試合格実績（現役のみ）国公立大は、お茶の水女子大、東京外国語大、東京藝術大、横浜国立大などに 30 人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大などに延べ 453 人が合格。

\*同校では、海外帰国生特別募集として、10 月入学となる後期募集を実施している。